

2014 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 1 問 地理の基礎的事項

出題範囲	地図・地理情報, 大地形, 気候, 国家, 農牧
難易度	★★★☆☆
所要時間	10 分半
傾向と対策	2014 年度の第 1 問は, さまざまな分野にわたる地理の基礎的事項を問うもの。地図に関する設問は, 基礎的だが抜け落ちやすい図法や時差についての問題が多く, これら分野の学習が欠かれない。さらに, 地形や気候を地球規模で比較する基礎問題が多く出題されていて, 地理 B 受験者の確認問題としても有効である。小問数は多いが, 難易度はそれほど高くない。一つひとつの問題に集中力を保って確実に解答することが求められる。

問 1 1 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

正距方位図法に関する問題。各図法の特徴をここでもう一度見ておこう。等角航路を直線で示せる正角図であるメルカトル図法や, 面積が正しく表現される正積図であるサンソン図法, モルワイデ図法, グード (ホモロサイン) 図法, ボンヌ図法なども覚えておきたい。

名前のとおり, 正距方位図法は中心からの距離と方位 (方角) が正しい図法であり, 図の中心地点ともう一つの地点間の最短経路である大圏コースを示すことができる。したがって, 地図上で最もブラジルととの距離に近い④のローマが正解である。なお, ブラジルを中心としたこの地図上で, 東京-ローマ間やケアンズ-アンカレジ間の距離や方位を正確に表すことはできない。あくまで中心からの距離と方位が正しいということに注意する。

問 2 2 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

経度から時差を測定する問題。まずは各地点の経度差から考えていこう。

南極大陸から 12 本の経線が出ていることから, 経線間の経度差は 30 度である。また, 日付変更線がアラスカとシベリアの間にあるベーリング海上を通過することを踏まえる。地点 B はイギリス付近を通過するので経度 0 度であり, A は日付変更線より一本東京寄りなので東経 150 度である。一般的には 15 度で 1 時間の時差が生じる。したがって, この 2 点間の時差は 10 時間である。A - B 間には日付変更線はなく, A の方が時間が早いので, A が 3 月 18 日午前 9 時のときに B はその 10 時間前の 3 月 17 日午後 11 時となる。よって, 正解は③で

ある。

問3 3 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

三つの地点の地形に関する問題。産出する鉱産資源と地形をきちんと結びつけて考えられれば、容易に正解までたどり着けるだろう。

ア F が該当する。新期造山帯の説明である。F にはカスピ海の西岸で急峻な新期造山帯のカフカス山脈などがあり、カスピ海沿岸ではバクー油田をはじめとして多数の石油・天然ガスの産地がある。

イ D が該当する。古期造山帯の説明である。D は北アメリカ東部のアパラチア山脈周辺。アパラチア山脈周辺でとれる石炭は五大湖周辺で採れる鉄鉱石と結び付き発展した鉄鋼業など、さまざまな場面でアメリカ合衆国の工業を支えてきた。

ウ E が該当する。安定陸塊の説明である。E はオーストラリアの南西部に位置し、パースなどの都市がある。オーストラリア大陸は東部に位置する古期造山帯のグレートディヴァイディング山脈以外は安定陸塊に属している。付近はボーキサイトの産出で有名である。このように、地帯構造と各地で産出される鉱産資源には関係性があるので覚えておこう。

以上より、アがF、イがD、ウがEとなる組み合わせの⑤が正解である。

問4 4 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

南米大陸西岸部の気候と植生に関する問題。この地域の自然環境の成因についても考えながら解いていこう。K は南アメリカ西岸部のアタカマ砂漠周辺である。南回帰線付近で一年中中緯度高圧帯が発達することや、沿岸を寒流であるペルー海流が流れているために海水温が低く上昇気流が起こりにくいことから、降水量が少なくなり砂漠が形成されている (BW)。同様の成因の砂漠として、アフリカ大陸西岸のナミブ砂漠が挙げられる。

① 誤 夏少雨、冬に多雨となり、硬葉樹林が見られるのは地中海性気候 (Cs) である。南半球では、K の南方に位置するチリ沿岸部、オーストラリアのパース、南アフリカのケープタウン周辺にみられる。よって、文は適当でない。

② 誤 夏多雨、冬乾燥でサバナ (熱帯草原) がみられるのは熱帯サバナ気候 (Aw) である。南アメリカ大陸では、ブラジル高原やオリノコ川流域などにみられる。よって、文は適当でない。

③ 正 南アメリカ西岸部のアタカマ砂漠周辺は、降水量が少なく砂漠がみられる。文は適当である。正解は③。

④ 誤 温暖冬季少雨気候 (Cw) や温暖湿潤気候 (Cfa) の説明と推定される。南アメリカ大陸ではラプラタ川流域などに温帯が広がっている。よって、文は適当でない。

問 5 5 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

国境や領域に関する比較的細かい知識を問う問題である。

- ① 誤 未確定の国境は未だに世界中に存在する。日本も周辺諸国と北方領土や竹島、尖閣諸島などで領土問題を抱えている。
- ② 誤 領海は干潮時の海岸線から 12 海里である。国家の領域をなるべく広く取るためには、満潮時の海岸線よりも、干潮時の海岸線から 12 海里を測ったほうが都合がよいと理解しよう。
- ③ 正 排他的経済水域内では、海産物などの水産資源や海底油田などの地下資源などの調査と発掘は沿岸国に排他的な権利があるとされているが、問題文にあるように航空機の飛行や船舶の航行、ケーブルの敷設は自由である。日本は島国で四方を海で囲まれ、多数の島を保持していることから広大な排他的経済水域をもっている。
- ④ 誤 領空は大気圏内までであり、宇宙空間を通過する人工衛星の運用に主権国の許可は不要である。

問 6 6 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

熱帯地域における農業に関する問題。写真から農業の特徴を判別しよう。

- L スが該当する。写真を見ると 2 種類の作物が栽培されているのがわかる。アグロフォレストリーという農法で、樹木の育成を待つ間に別の作物を栽培することによって地力を弱めることなく、持続的に作物を栽培できることが期待されている。
- M サが該当する。焼畑農業の写真である。熱帯では土地がやせていることが多いので、木や草を燃やした草木灰を肥料として作物を栽培する自給的農業が途上国中心にみられる。近年の人口増加などによって森林の回復サイクルを無視した焼畑が行われ、森林の減少が問題になっている。
- N シが該当する。熱帯地域の旧欧米植民地では、安価な現地労働力を用いて単一の商品作物を大規模に栽培するプランテーション農業が盛んであった。カカオやバナナ、油やしなどはその典型である。現在は現地資本中心になっているが、未だに農業従事者に適正な賃金が払われていないケースも多く問題になっている。
- 以上より、L がス、M がサ、N がシとなる組み合わせの⑤が正解である。

問 7 7 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

尾根線と谷線から地形を読み取る問題。なお、尾根とは主に山頂を結んだ峰筋を指す。

- ① 誤 尾根線と谷線だけでは標高の判断はできない。密になると傾斜が急になる等高線と区別しよう。

- ② 誤 尾根線と谷線の密度は、**U** よりも **T** のほうが明らかに密である。
- ③ 誤 尾根線と谷線だけでは**標高を判定することはできない**。
- ④ **正** **Z** がいくつかの谷が合流している地点であることに留意する。**Y** 地点より北東に谷線を進むと谷線が途切れ、そのすぐ先に尾根線がある。すなわち、ここが谷の始まりである。よって地点 **Y** は地点 **Z** よりも上流にあり、**Y** で降った雨は**下流の Z に流れる**といえる。よって、④が正解である。

問 8 8 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

海岸平野における土地利用に関する問題。図 4 の a-b 断面と図 3 を組み合わせて考えると、海岸線と平行に高所と低所が交互に形成されているのがわかる。これは、波によって運ばれた砂礫で形成された**浜堤**（ひんてい）と、浜堤の間に形成された低湿地である。

ナ **畑地**が該当する。標高が比較的高い波堤の部分で住宅地の近くに分布していることに注目しよう。波堤では水が得にくいため、水はけのよさが求められる畑に適している土地といえる。

ニ **森林**が該当する。海岸部分に沿って広く分布していることに着目しよう。海から吹く強い潮風から住宅や畑などを守る防風林として、マツなどが植えられていると考えられる。

ヌ **水田・湿地**が該当する。標高が低い部分に分布している。地下水面が低いので水を得やすく、主に水田として利用される。浸水の危険性があるため、住宅は少ない。

以上より、**ナ**が畑地、**ニ**が森林が**ニ**、**ヌ**が水田・湿地となる組み合わせの④が正解である。

2014 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 2 問 現代世界の国境を超えた結びつき

出題範囲	貿易，農牧業，水産業，工業概論，第三次産業，人口，地域統合
難易度	★★★★☆
所要時間	13 分半
傾向と対策	資料を読み解く問題。分野が多岐にわたることと通常目にしない指標が多いことから，高い思考力を要求される難問もある。それだけに受験生の中で差が付く問題でもあり，じっくり腰を据えて取り組みたい。対策としては，過去問で資料問題に慣れることが最も有効である。問題を解く中で自分の苦手な分野を発見し，見慣れない資料問題を自分の知識をうまく使って解答する感覚を磨いてほしい。

問 1 9 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

日本の貿易相手国の上位 5 か国の推移に関する問題。日本との経済的な結び付き，地理的關係を考慮しよう。

- A 中国**である。2000 年代から急速に貿易額が伸び，貿易額で他を圧倒している。中国は安価で豊富な労働力を背景に 1990 年代の市場経済導入以降急速に発展した。日本企業も多数進出し，盛んに貿易を行っている。ただ，近年は人件費の高騰等により経済は減速傾向にあり，今後の動向が注目されている。
- B アメリカ合衆国**である。1990 年時点でほかを大きく引き離しており，A に抜かれた 2010 年時点でも日本の主要な貿易相手国となっていることに着目する。アメリカ合衆国はかつて日本の最大の貿易国であり，現在でも農業，工業など多岐にわたり関わりが深い。余談ではあるが，2009 年の落ち込み幅が A よりも B のほうが大きいのは，アメリカ合衆国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安の影響を，震源であるアメリカ合衆国のほうがより大きく受けているからと考えられる。
- C オーストラリア**である。ほかの 2 国と比べて，伸びてはいるものの貿易額が遠く及ばないことから判断する。日本は，地理的な距離が近いので，豊富に資源をもつオーストラリアから石炭や鉄鉱石などの資源を大量に輸入しており，双方にとって主要な貿易相手国の 1 つになっている。

以上より，アメリカ合衆国が **B**，オーストラリアが **C**，中国が **A** となる組み合わせの④が正解である。

問 2 10 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

水産物や畜産物の日本の輸入上位国に関する問題。日頃，スーパーや商店で買い物している人なら，地理的な

知識が乏しくても、ある程度解けるだろう。

- ① **豚肉**が該当する。カナダやデンマークが入っていることから判断する。カナダは生産性の高い**企業的牧畜**を行っているが、国内市場があまり大きくないので主要輸出国となっている。デンマークは、伝統的に**酪農**や畜産が発達しており、デンマークを含めた北欧の国々では農産物の生産額よりも畜産物の生産額のほうが大きい。
- ② **牛肉**が該当する。オーストラリア、ニュージーランドが入っていることから判断する。この2国では広い土地を利用して牛肉の生産が盛んであり、安価で安定した牛肉として日本の輸入額も大きい。
- ③ **サケ・マス**が該当する。チリ、ノルウエー、ロシアなどが入っている。これらの国々は、それぞれ北海などに豊かな漁場をもった中緯度、高緯度の沿岸国である。
- ④ **エビ**が該当する。すべて東南アジアの国で構成されていることに着目する。東南アジアではおもに日本向けのエビの養殖が盛んであり、その養殖池が盛んに作られた。しかしその結果、**マングローブ**林が伐採されて生態系の破壊が進むなど、環境破壊が引き起こされている。

問3 11 正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

船舶のコンテナ貨物取引に関する問題。このように見慣れないデータを扱う問題では、いかにしてその国の規模や得意な産業など、知っている知識に関連づけられるかがポイントとなる。

- ① **中国**が該当する。コンテナ貨物取引量が圧倒的に大きいことから判断できる。また、首位港湾がその国のコンテナ貨物取引量に占める割合が20%台と比較的低いにもかかわらず、首位港湾の国際順位が2位であることから、大規模な港を多数抱える大国であることがわかる。
- ② **シンガポール**が該当する。首位港湾の国際順位が1位であり、しかもその港がほぼ唯一のコンテナ貨物の出入り口となっていることに着目する。シンガポールは非常に小さな島国であり、古くから商業の中継地点として栄えてきたが、工業化に成功して以後は世界の商業の拠点としてますます重要度が高くなっている。
- ③ **日本**が該当する。地域別順位では5位にもかかわらず、首位港湾の国際順位が4つの中では低く、首位港湾がコンテナ貨物取引量に占める割合も低いことに着目する。日本は南北に延びる島国であり、海運が発達してきたが、総合的で大きい港湾があるわけではなく、むしろ港湾の**後背地**の特色、特に後背地で発達した工業によって港の分散傾向が強いため、首位港湾の順位は低くなっている。また、ほかの東アジア諸国に比べると港湾の利用料金が低いことも、ほかの東アジアの港湾に圧倒される一因となっている。首位港湾は東京港。
- ④ **アラブ首長国連邦**が該当する。国・地域別順位では他国に劣るが、首位港湾が発達していること、またその首位港湾の占める割合が高いことから、ほかに拠点をもちない小国であることがわかる。アラブ首長国連邦の主要な輸出品は**石油**であり、日本とのつながりも深い。

問 4 12 正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

業種別の日本企業の海外現地法人のデータであることに注意する。すなわち、日本の輸出品や輸入品のことを念頭に検討する。

- E 輸送機械製造業**が該当する。世界全体数が多く、北米が多いことに着目する。輸送機械製造業、特に自動車産業は日本の基幹産業である。よって、世界中に現地法人が存在する。また、アメリカ合衆国との貿易摩擦が高まった際、日本企業が合衆国に進出して現地生産を行ったため、北米での現地法人数も多い。
- F 繊維製造業**が該当する。現地法人がアジアに集中していることに着目する。繊維製造業は**労働力指向型**の工業であるため、安価で豊富な労働力を求めて、日本から多くの企業が中国や東南アジアに進出している。
- G 農林漁業**が該当する。世界全体数が少なく、ほかと比較してオセアニアの現地法人数の割合が高いことに着目する。日本は農林漁業に関しては輸入国であるので、あまり現地法人数は多くない。また、地理的な近さによってオセアニアから大量の農産物や畜産物を輸入していることから、その輸入に関連した企業が多く進出していると考えられる。

以上より、繊維製造業が **F**、農林漁業が **G**、輸送機械製造業が **E** となる組み合わせの④が正解である。

問 5 13 正解は②

難易度 ★★★★★☆☆

解説

4 개국間の訪問客数についての問題。この問題を考えるうえでは、まず **Q** から判別することが必要であるので、そこから解説する。

- P 韓国**が該当する。P-R 間の関係を把握すると、P から R に行く訪問客のほうが多い。また、P-Q 間の旅行者はほぼ同数である。このことから、経済が成熟している韓国と判断できる。
- Q 日本**が該当する。アメリカ合衆国から来る訪問客に比べて、アメリカ合衆国に行く観光客がかなり多い。P と R にも多くの訪問客が行っていることから日本だと判断できる。これまでは、日本からアメリカに行く観光客が多かったが、近年は韓国や中国など周辺アジア諸国への人気が高まっている。また、直近では日本へ来る中国人観光客の増加が話題となっている。
- R 中国**が該当する。表中で唯一、アメリカ合衆国からの訪問客がアメリカ合衆国への訪問客よりも多いことに着目する。広い国土に多数の世界遺産をもち、物価が安いいため、かつてはアメリカ合衆国など先進国から多数の観光客を受け入れてきた反面、富裕層に限られていたので海外へ行く人は少なかったが、1990 年代以降の急速な経済成長によって富裕層が増加し、近年は海外へ行く観光客は増えている。

以上より、韓国が **P**、中国が **R**、日本が **Q** となる組み合わせの②が正解である。

問6 14 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

まず、グラフごとに横軸の目盛りの最大値が異なることに注意する。外国人労働者に関する精緻な知識が必要であり、難問である。

- ① **フィリピン**が該当する。4つのグラフの中では人口規模が中程度であり、女性の数が多いことからわかる。フィリピンは日本からの移民の歴史などによって関わりの深い国の1つであり、フィリピン経済の低迷期にバブルの好景気を迎えていた日本へ、出稼ぎ労働者としてやって来る人々が多数いた。
- ② **ブラジル**が該当する。ほかのグラフに比べて年齢層の偏りが少ないことに注目しよう。もともとブラジルには日系移民が多かったが、バブル期に労働力不足となった際に入国管理法が改正され、日系人の就労がしやすくなったことで、定住した日系人が家庭を築いているためと考えられる。よって、正解は②である。
- ③ **イギリス**が該当する。ほかのグラフに比べて在住数が少ないことに着目する。イギリスは地理的に遠いため、日本への移住者はそれほど多くない。また、仕事による移住者が大半のため、働き盛りの世代の男性数が特出したグラフとなっている。
- ④ **中国**が該当する。ほかのグラフに比べて在住数が非常に多く、その多くが20代から30代の働き盛りの世代であることに注目する。中国人の居住者は近年増加傾向にあり、これまで最も多かった韓国や朝鮮籍の人々の数を抜き現在トップとなっている。

問7 15 16 正解は③と④

難易度 ★★★★★☆

解説

あらゆる国家の結び付きに関する問題。1つひとつ、丁寧に検討して考えていこう。

- ① 正 **AU** (アフリカ連合) は **OAU** (アフリカ統一機構) の後継組織。加盟国の連帯を強化するために EU をモデルに設立されたもので、モロッコを除くアフリカの54か国 (南スーダンが2011年に加盟) と西サハラが参加し、紛争や貧困などの問題解決に向けて取り組んでいる。
- ② 正 **UNCTAD** (国連貿易開発会議) は1964年、先進国と途上国の格差を是正し南北問題の解消を目指して発足した。また、**世界銀行** (IBRD) はもともと第二次大戦の戦後復興を支えるための機関であったが、現在は途上国の支援も積極的に行っている。
- ③ 誤 **APEC** はオーストラリアの呼びかけで1989年に発足した、アジア太平洋諸国の経済協力組織である。現在は ASEAN や日中韓、NAFTA、ロシア、南アメリカ諸国なども加盟する大規模な経済会議として機能している。
- ④ 誤 **OPEC** (石油輸出国機構) は、**資源ナショナリズム**の高まりとともに欧米系の石油メジャーによる価格決定に対抗して、産油国で結成された国際機関であり、現在でも加盟国間の生産量調整などによって世界の石油価格に大きな影響を与えている。

- ⑤ 正 **JICA**（国際協力機構）は青年海外協力隊の派遣にとどまらず，外国からの研修生の受け入れも積極的に行っている。
- ⑥ 正 **ASEAN**（東南アジア諸国連合）は 1967 年にタイ，フィリピン，シンガポール，マレーシア，インドネシアで結成された。もともとベトナム戦争を契機とし，東南アジアの社会主義国家への対抗を目的としていたが，冷戦終結後は東南アジア諸国内での経済協力が目的となり，ベトナムが 1995 年に加盟したのを皮切りにラオスやカンボジアなどの旧社会主義国も参加して，現在は 10 か国で構成されている。

以上より，正解は③と④である。

2014年度 センター試験 本試験 地理 A

第3問 アフリカの地誌

出題範囲	アフリカ地誌, 大地形, 農牧業, 生活・文化, 都市, 国際援助
難易度	★★★☆☆
所要時間	9分半
傾向と対策	2014年度の第4問は、アフリカの問題を集中的に取り扱った。地形や農業、生活文化に至るまでさまざまな側面からアフリカを切り取った良問といえる。すべての問題が基礎の範囲を超えるものではないため、間違えた分野は今後のために復習しておこう。また、日本のODAはセンター試験の地理A、Bで繰り返し出題されている事柄である。このようにセンター試験で頻繁に出題される話題はいくつか存在するため、過去問を解く過程で発見し、注意しておこう。

問1 17 正解は⑥

難易度 ★★★☆☆

解説

アフリカの河川と、その周囲の自然環境に関する問題。どの河川もアフリカの自然環境の問題として取り上げられることが多いので、ここでもう一度確認しておこう。

ア Cの**コンゴ川**流域である。アフリカ大陸の**熱帯雨林気候**(Af)は赤道の通過する**コンゴ**周辺に限られている。これらの熱帯雨林には希少な類人猿が生息しているが、密猟が大きな問題となっている。

イ Bの**ニジェール川**流域である。水源を**ギニア湾**岸にもち、途中で、半乾燥地帯であり近年**砂漠化**が進行している**サヘル地帯**を通過し、ナイジェリア付近の河口へ至る。河口付近には**デルタ**が形成されており、石油が生産される。サヘル地帯の砂漠化には、自然要因のほかに人口の増加による過放牧や過耕作などの人的要因が関係しているとされ、大きな問題となっている。

ウ Aの**ナイル川**である。水源を**ヴィクトリア湖**に注ぐ河川をもち、付近で降った豊富な雨水が下流部へと流れている。また、ナイル川は乾燥地帯を貫流する典型的な外来河川であり、河口には**デルタ**が形成され、上流から流れてきた肥沃な土砂によって小麦の生産が盛んである。

以上より、アがC、イがB、ウがAとなる組み合わせの⑥が正解である。

問2 18 正解は④

難易度 ★★★☆☆

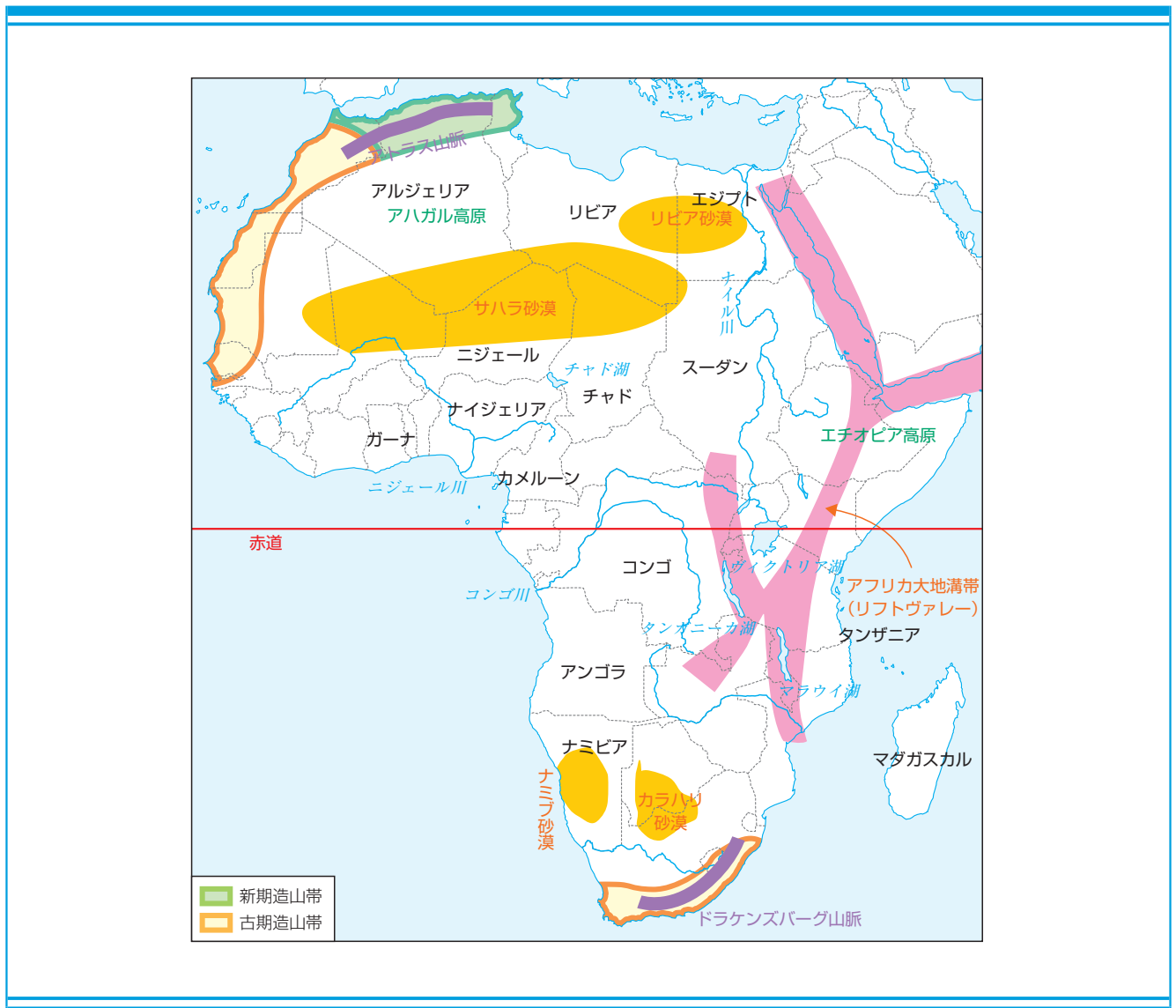
解説

アフリカ大陸の標高に関する問題。アフリカ大陸の標高は特徴的なため出題されやすい。高原地帯や山脈のある地域などは特に把握しておこう。

- ① **カ**に該当する。グラフ Y 軸側の標高が高くなっていることに着目する。図 1 を見ると、カ**の**白丸付近は**アトラス山脈**の一部となっていることが推測できるので、カと判別できる。アトラス山脈は急峻な**新期造山帯**で、**アルプス=ヒマラヤ造山帯**の一部である。
- ② **キ**に該当する。キの周辺が、**サハラ砂漠**周辺で標高 500m 程度の地域だと知っていれば簡単である。平均標高が 500m 以下の地域は、全体的に標高の高い**アフリカ大陸**においては標高の低い地域である。
- ③ **ケ**に該当する。平均して 1,000m 以上の標高がある。南**アフリカ共和国**以外には講義等で触れる機会も少なく、この周辺の標高に特徴があることは見落としがちである。おさえておこう。
- ④ **ク**に該当する。黒印の側で特に標高が高くなっているのは、**アフリカ大地溝帯**の一部である。付近には**アフリカ大陸**最高峰の**キリマンジャロ山**など急峻な山々が並び、**ヴィクトリア湖**も標高が高い。白印付近は**コンゴ盆地**が広がっているため標高はやや低くなっている。正解は④。

最後に、問 1 で問われた部分も含めて、**アフリカの地形**について確認しておこう。

◆地図 **アフリカの地勢**



問 3 19 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

アフリカの農牧業に関する問題。アフリカは地域によって気候がまったく違い、農業もそれによって変わるため、結びつけて覚えておこう。

- ① 正 K 付近は**地中海性気候 (Cs)** であり、オリーブやコルクガシなどを栽培している。アフリカ大陸では南端の**ケープタウン**周辺も地中海性気候である。文は適当。
- ② 誤 天然ゴムは、熱帯雨林気候下で生産されるプランテーション作物である。L 付近は乾燥気候下のため、**オアシス農業**によって小麦やナツメヤシの栽培、羊やラクダなどの遊牧が行われている。地下水によって行われているオアシス農業では、人工的な地下水路（北アフリカでは**フォガラ**とよばれる）が用いられる。天然ゴムの栽培には適さないため、文は適当でない。よって、正解は②である。
- ③ 正 M 地域は**熱帯雨林気候 (Af)** 下で土地がやせているため、草木灰を用いた粗放的な**焼畑農業**で自給作物のタロイモやヤマイモ、キャッサバなどが栽培されている。文は適当。
- ④ 正 N 地域は乾燥気候下で、安定的な作物の栽培が困難な地域ではラクダや牛の**放牧**が行われている。文は適当。

問 4 20 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

東アフリカの商業史に関する問題である。アフリカ東岸の都市はインド洋の季節風貿易によって古くからアジアとの取引が活発であり、ヨーロッパとの取引の中継地点でもあった。インド航路を開拓したヴァスコ＝ダ＝ガマの航海の中継地点にもなっている。このインド洋、アラビア海の貿易はアラブ人によって担われていた。今日、東アフリカで使われている言語の1つである**スワヒリ語**は、東アフリカの現地語とアラビア語をもとにして成立した商業語である。

選択肢文にあるヒンディー語についてだが、ヒンディーはペルシア語でインドを意味し、インダス川に由来する。これを知れば、ヒンディー語がどの地域で使われているかの説明は不要であろう。また、トルコもアフリカとは関係がない。消去法で考えると、**サ**には**アラブ**が入り、**シ**には**スワヒリ**が入る。これにより、**サ**がアラブ、**シ**がスワヒリとなる組み合わせの①が正解である。

問 5 21 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

アフリカの都市に関する問題。写真と説明文から、歴史的背景などがわかれば解けるだろう。

タ Q に該当する。Q はエジプトの**カイロ**である。古くからイスラーム世界の商業、学問の中心地として栄えて

きた。アフリカ大陸とアジアの結節点であり、地中海の近くでもあることから商業が盛んである。また、近郊のピラミッドなどの遺跡群によって観光業も好調であった。アラブの春でのムバラク政権崩壊以後は、社会不安によって観光客が減少し、エジプト経済は深刻な不調に陥っている。

チ R に該当する。R はケニアの**ナイロビ**である。旧イギリス植民地のケニアは標高が高いことから、赤道近くにありながら比較的涼しく過ごしやすかったため白人の居住地となり、紅茶の栽培も盛んになった。このこともあり、この地域は**ホワイトハイランド**とよばれるようになった。現在ではアフリカの中心都市の一つとして、国際連合の機関もいくつか置かれている。

ツ P に該当する。P はモロッコの**フェス**である。西アジアや北アフリカなどのイスラーム世界の伝統的な街並みが残っている地域では、道が迷路状になっている都市が存在する。また、地中海性気候下の強い日差しを遮るレンガの街並みになっている。

以上より、**タ**が Q、**チ**が R、**ツ**が P となる組み合わせの④が正解である。

問 6 22 23 正解は③と⑤

難易度 ★★★☆☆

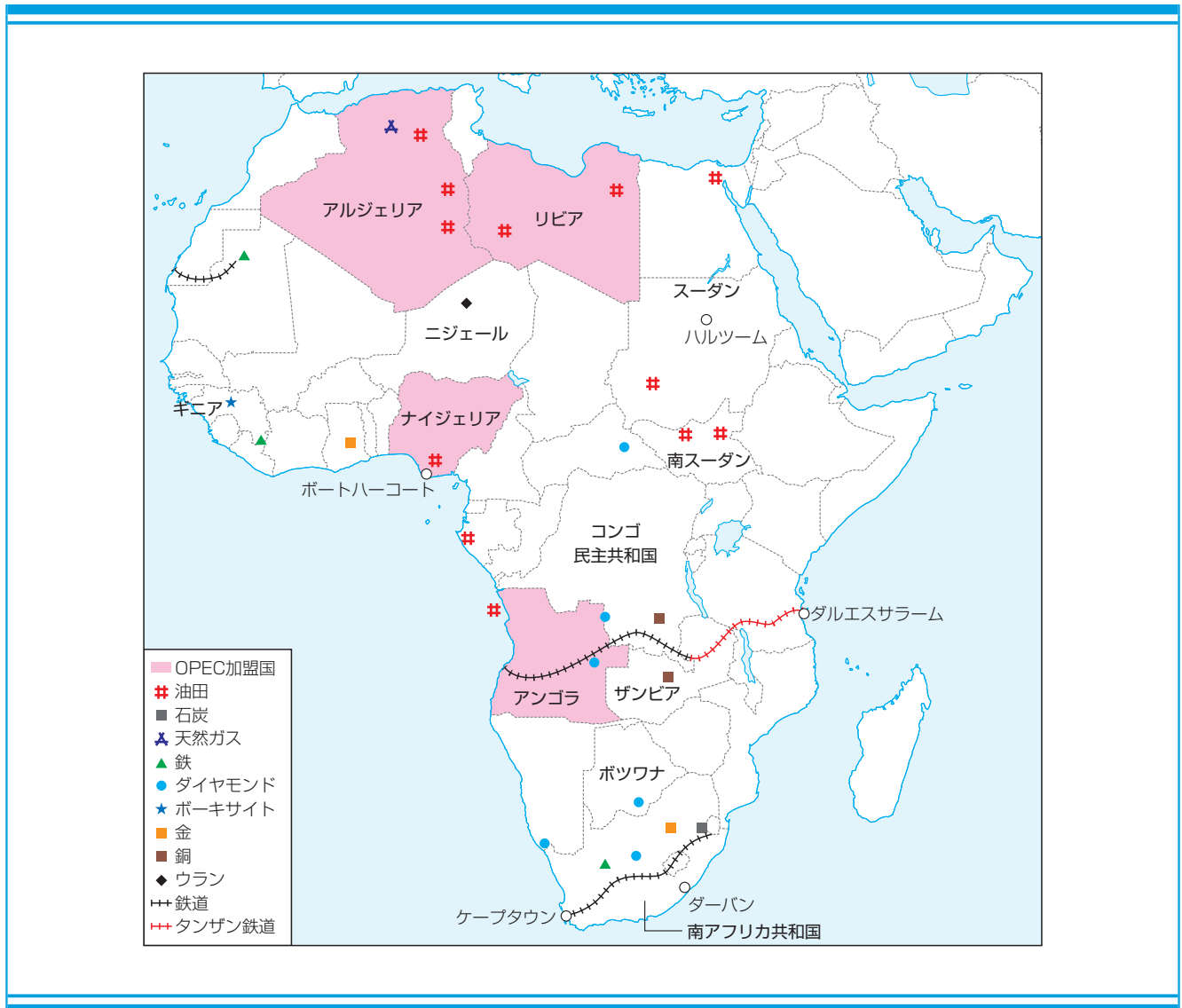
解説

アフリカの産業や資源に関する問題。どの国の産業もよく問われるので、きちんと覚えておきたい。

- ① 正 コートジボワールは旧フランス植民地。熱帯気候下でプランテーション作物である**カカオの栽培**が盛んであり、国の重要な輸出品の 1 つとなっている。文は適当。
- ② 正 内陸国ザンビアは**カッパーベルト**とよばれる地域で銅の産出が盛んである。中国の支援を受けて開通した隣国タンザニアとザンビアを結ぶ**タンザン鉄道**によって、インド洋側に銅が輸出されている。下線部の文は適当。
- ③ 誤 ナイジェリアに豊富にあるエネルギー資源は、**ニジェール川**デルタの**石油**であり、石炭ではない。よって、文は適当でない。この石油資源が、内戦であるビアフラ戦争の原因の 1 つとなったこともおさえておこう。
- ④ 正 南アフリカには**レアメタル**や**ダイヤモンド**、**金鉱**がある。ほかにも、東部の古期造山帯である**ドラケンスバーグ山脈**周辺では豊富な石炭が産出されるなど資源に恵まれた工業国であり、有力な経済成長国とされる**BRICS**の 1 つに加えられている。文は適当。
- ⑤ 誤 モーリタニアは北回帰線が通り、高温乾燥で砂漠気候下にあるため、**農業に適した地域は限られている**。そのため、小麦の生産が盛んで小麦の輸出国である、という記述が誤りで、文は適当でない。ちなみに、日本はモーリタニアからタコを輸入している。

以上より、③と⑤が正解である。最後に、アフリカの資源の分布を確認しておこう。

◆地図 アフリカの天然資源



問7 24 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

まず、問題文の冒頭にある「ODA（政府開発援助）」は、拠出国の経済規模や国際戦略、被援助国との歴史的関係などによって地域の特徴がみられる」にまず、着目する。

- a アメリカ合衆国が該当する。エジプト、ナイジェリア、南アフリカ、エチオピアなどのアフリカでも主要な国で軒並み首位の拠出国になっていることに注目する。アメリカ合衆国のODA拠出額は世界最大規模であり、主要な国に出資することで国際的影響力を保っていると考えられる。
- b フランスが該当する。被援助国との歴史的関係に着目すると、サハラ周辺諸国やマダガスカル、コートジボワールなど、旧フランス植民地を中心としてODAが展開されている。この傾向は、旧英領ガーナで首位拠出国となっているイギリスでもみられる。このようにフランスは、旧植民地を中心にODAへ熱心に取り組んでいる国の1つである。

- c **日本**が該当する。よく見ると、スワジランドやガンビアなどの小国で拠出額が1位になっている。日本はバブル経済が崩壊した1990年代半ば以後、ODAに多額の予算を割くことが難しくなった。現在でもさまざまな国に物的、人的支援を行っているが、小国に対して少しでも援助を行うことで、アフリカでの一定の影響力を保持する戦略があるとみられる。

以上より、**a**がアメリカ合衆国、**b**がフランス、**c**が日本となる組み合わせの②が正解である。

2014 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 4 問 地球環境問題と国際協力

出題範囲	環境問題，資源・エネルギー，自然災害，国際援助
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2014年度の第4問は，地球環境問題と国際協力に焦点を当てた問題。どちらも重要な分野であるが，日常学習が不足しがちな分野でもある。この問題を解くことで，自分の環境問題と国際協力の知識を再確認しよう。特に自然エネルギーの特徴や課題は，各国の比較で示されることもあるので重要。日本で風力発電が広がらないのはなぜか，逆に風力発電はどこで盛んなのか，そうした問いをもちながらこの分野の知識を深めていきたい。

問1 **25** 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

二酸化炭素の排出量の国別の推移を問う問題である。二酸化炭素の排出量については，その国の工業の規模に加えて，環境配慮技術の有無に左右されることもおさえられていけばよい。

ア **ドイツ**が該当する。ドイツはヨーロッパ随一の工業国であり，その環境技術も高いレベルにある。先進諸国では，20世紀後半から，環境への意識の高まりやエネルギー価格の高騰によって省エネルギー技術の研究開発が進んだこともあり，ドイツの二酸化炭素排出量は減少している。また，ドイツは風力発電で世界をリードするなど，再生可能エネルギーの利用にも熱心である。

イ **韓国**が該当する。1960年代以後急速に発展して，アジア NIEs（新興工業国・地域群）の1つに数えられるようになったことを思い出そう。一般的に工業生産が増えれば二酸化炭素の排出量も増えるので，1971年以降は急激に排出量が増え，近年は緩やかな伸びに変わっているイが該当する。

ウ **タイ**が該当する。タイは ASEAN の中でもシンガポールやマレーシアに次いで工業化を進めており，現在豊富で安価な労働力により成長を続けている。しかし，未だ韓国には工業生産で及ばないと考え，二酸化炭素排出量も韓国より少ないと推定する。

以上より，**ア**がドイツ，**イ**が韓国，**ウ**がタイとなる組み合わせの④が正解である。

問2 **26** 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

日本の自然エネルギーを利用した発電に関する問題。それぞれの発電方法の特徴をしっかりと覚えておきたい。

- カ B の太陽光発電が該当する。騒音がなく、比較的簡単かつ安価に家庭の屋根に設置できるなどの利点から、日本だけでなく世界中で普及が進んでいる。しかし太陽光の強弱に左右されるため、天候によって電力供給量が大きく変わる、耐久年数と維持費用を考えるとコストが高いなど、課題も多く残されており、太陽電池の発電効率の向上や蓄電技術の改良などの研究が進められている。
- キ C の地熱発電が該当する。マグマなどから放出される地中の熱を利用して、水蒸気を発生させることでタービンを回し、発電する。環境への負荷が小さい反面、立地は地熱が得やすい場所に限られる。日本には多くの火山があるが、多くが国立公園の指定地域にあり開発が制限されているため、地熱発電所を建設しにくい事情がある。
- ク A の風力発電が該当する。二酸化炭素の排出が少なく設置コストが低いが、問題文にある騒音問題のほかに、偏西風が安定して吹き続ける風車で有名なオランダとは異なり、日本では方向が一定で安定した強い風を得やすい地域が非常に少なく、効率よく風力発電を行うのは難しいとされている。
- 以上より、カが B、キが C、クが A となる組み合わせの④が正解である。

問 3 27 28 正解は①と⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

世界各地における環境の変化や自然災害に関する問題。どの問題も頻出事項である。

- ① 正 P はインド洋のモルディブ諸島周辺である。サンゴによってできた低平な島々を国土としているため、地球温暖化に伴う海面上昇によって国土の大半が水没する危険性を抱えている。
- ② 誤 Q は亜寒帯冬季少雨気候 (Dw) であり、洪水を引き起こすほどの氷河は発達していない。
- ③ 誤 R はオーストラリアのグレートバリアリーフ周辺である。大規模なサンゴ礁が発達しているが、水質の悪化や海水温の上昇などによってその死滅が危惧されている。また、付近に新期造山帯はなく、サンゴ礁の減少は火山噴火が原因ではない。
- ④ 誤 S のメキシコ湾岸地域では、カリブ海で発生したハリケーンが襲来して大きな被害が出ることもあるが、ハリケーンなどの低気圧によって起こされる高波は高潮とよばれ、地震によって引き起こされる津波とは区別されている。
- ⑤ 正 T のペルー沖の海水温が上昇する現象をエルニーニョ現象とよぶ。T 付近には寒流のペルー海流が流れているが、これが弱まると暖水塊が太平洋沖に移動せずペルー沖にとどまるため、海水温が上昇しエルニーニョ現象が起こる。この現象が起こると、世界中で異常気象が観測されることが多い。逆に海水温が低下する現象をラニーニャ現象とよぶ。
- ⑥ 誤 U はアルゼンチンのパンパ地帯。ラプラタ川の河口付近に位置し、温帯気候下で比較的湿潤な東部では肉牛の生産が、乾燥する西部では羊の放牧がそれぞれ行われている。タイガは亜寒帯の針葉樹林であるので、この説明は誤りである。ちなみに、南半球に亜寒帯は存在しない。これはケッペンの気候区分の模式図等よく問われるので覚えておこう。

以上より、正解は①と⑤である。

問4 29 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

環境問題への国際協力に関する問題。なじみのない組織名も登場するが、ここで覚えておこう。

- ① 正 IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、地球温暖化の問題に対処するためにこれまでの知見，すなわちこれまでの論文を精査，集約して気候変動への対策を提言する機構である。文は適当。
- ② 正 東アジア諸国では新興国を中心に大気汚染が深刻化しており，国境を越えて有害物質が移動したりする例もあるため，共同で観測のネットワークを立ち上げ，有力な対策を打つことを目標にしている。文は適当。
- ③ 正 フィリピンやインドネシア，マレーシアなどでは，おもに日本に大量の木材を輸出したため森林が減少して問題となり，丸太の輸出などが制限されるようになった。日本ではこの状況に鑑み，NGO などを通じて支援を行っている。文は適当。
- ④ 誤 水鳥の生息地となる湿地の保全を目指す条約は，ラムサール条約である。モントリオール議定書は，オゾン層を破壊するフロンなどの物質を特定し規制するために1987年に結ばれた条約なので，文は適当でない。よって，正解は④である。

問5 30 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

水利用とその課題に関する問題。

- ① 正 乾燥地帯である中央アジアの阿姆ダリア川，シルダリア川流域では，綿花栽培のために上流部で灌漑を行い，河川の流量が著しく減少した結果，アラル海の縮小が問題となっている。文は適当である。
- ② 正 中国やインドなど途上国では，生活排水や工業排水が適切に処理されることなく河川に垂れ流されている場合が多く，洗剤で泡立った河川などが取り上げられ問題となっている。文は適当。
- ③ 正 いくつかの国を流れ，通過するどの国にも航行の自由がある国際河川は，昔から紛争の種になることが多かった。近年は，ダム建設を巡って上流の国と下流の国が対立する事例が増えていて，紛争の解決手段として会議が行われる。具体的には，メコン川を巡る中国とタイ，ラオス，カンボジアなど東南アジア諸国による，川の利用に関する利害の対立と調整がある。文は適当。
- ④ 誤 一般的に，ダムが建設されるとダム湖の底に土砂が堆積するため，下流部に供給される土砂は減少する。その結果，河川の河口部に形成される干潟や三角州（デルタ）は衰退し，沿岸流によって砂浜が削られて海岸線が後退する場合もある。具体的には，ナイル川に建設されたアスワンハイダムによって下流部への肥沃な土砂の供給が減少したことなどが挙げられる。文は適当でない。よって，正解は④である。

2014 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 5 問 地域調査（愛知県知多半島）

出題範囲	地形図，地図・地理情報，貿易，工業概論
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8 分
傾向と対策	2014 年度の第 5 問は，地形図の読み取りを中心に日本のある地域の調査を扱った問題である。センターでは地理 A，地理 B とともに毎年出題される設問だが，出題がパターン化されているため，よく資料を読み込めば解答できるものがほとんどである。同年度は統計地図の出題があったが，これも思考力を駆使すれば正解にたどり着ける。工業や貿易に関する出題もあるが，さほど難しくはない。完答しておきたい大問である。

問 1 31 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

知多半島の地勢図に関する問題。図 2 から読み取れることについて，素直に答えるだけでよい。

- ア 正 半島の南端部を見ると濃色となっており，標高の高い丘陵が海岸線まで続いていることがわかる。よって，アは正しい。
- イ 誤 東海市から阿久比町にかけての地勢を見る。濃色の部分で隔てられていて，山が続いていることはわかるが大きく淡色で示されている部分はなく，「北東から南西方向に連続する大規模な谷」は見られない。東海市から阿久比市にかけて地続きのように見える谷もあるが，これは北西から南東の方向である。よって，イは誤りとなる。

以上より，アが正，イが誤となる組み合わせの②が正解である。

問 2 32 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

知多半島における人口，人口増加率，老年人口割合の統計地図から，文章の下線部の正誤を判断する問題。この問題も，統計データを読み取れば問題なく答えられるだろう。

- ① 正 人口の統計地図を見ると，北部，中部には 8 万人に近い円の自治体が多くなっている。下線部は適当である。
- ② 正 人口の多い自治体の人口増加率を見ると，4%以上の自治体も多い。これらの地域では人口が増加傾向にあるといえるので，下線部は適当である。

- ③ 正 老年人口割合の統計を見ると、南端の自治体は 26% 以上と知多半島の中では**老年人口割合が最も高くなっている**。よって、下線部は適当である。
- ④ 誤 常滑市は、図 2 を見てわかるとおり、中西部にある自治体である。常滑市は確かに人口増加率が高いが、**老年人口割合は 22 ~ 26%**となっていて、これはほかの自治体と比べて高齢者の割合が低いとはいえないので、下線部は適当でない。よって、正解は④である。

問 3 **33** 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

常滑市の新旧地形図比較問題である。この問題も、選択肢文と照らし合わせて地形図をきちんと読み取れば解けるので、読み取る時間を短くすることを意識しよう。

- ① 正 旧地形図に記載されている多屋東部の丘陵地の新しい地形図を見ると、確かに**知多横断道路がある**ので、この文は適当である。
- ② 正 旧地形図の常滑町の北西の、「とこなめ」と記載されている周辺にあった砂州やその一帯は、新地形図では**埋立地の造成によって消失**している。この文は適当である。
- ③ 誤 新地形図における成岩街道ならわの南部を見ると、確かに工場は建設されているが**池は残っている**ので、この文は適当でない。よって、正解は③である。
- ④ 正 本宮山ほんぐうさんの西部は、新地形図を見ると愛知用水が作られ、旧地形図では針葉樹林帯だった場所は水田など**農地として整備**されている。この文は適当である。

問 4 **34** 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

空港と港湾の輸出入品目の違いに関する問題。船舶で重量のある貨物を運び、飛行機は軽い貨物を運ぶことが多いので、それを意識して考えよう。

- X **名古屋港：輸入品**が該当する。石油ガス類や原油が大半を占めていることから、日本が石油資源を輸入に頼っていることを考えて輸出品ではあり得ないと判断できる。
- Y **名古屋港：輸出品**が該当する。自動車や自動車の部品など、重量のある貨物が多い。自動車を飛行機で輸出することはあり得ない。
- Z **中部国際空港：輸出品**が該当する。半導体等電子部品、電気回路等の機器、電気計測機器と比較的軽い部品や機器が主となっているので、飛行機での輸出品とわかる。これは「中部国際空港：輸出品」である。

以上より、中部国際空港：輸出品が Z、名古屋港：輸入品が X、名古屋港：輸出品が Y となる組み合わせの⑤が正解である。

問 5 35 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

常滑市の地域調査の方法に関する問題。データとそこから得られる情報の組み合わせが正しいかを考えればよいので、それほど難しい問題ではないだろう。こうした地域調査方法についての問題は、しっかり読めば確実に得点できるところなので、落とさないようにしたい。

- ① 誤 記述には崖や斜面の補強に土管や甕^{かめ}、陶片が使われた構造物の分布を地形図から読み取るとあるが、地形図から地下に埋まっているであろう土管や甕の分布を知ることはできないと考えられるので、①は適当でないといえる。よって、正解は①である。
- ② 正 図書館で集めた文献資料から歴史を読み取るのは、適当な記述といえる。
- ③ 正 現地での観察から実際に坂道の傾斜や特徴を明らかにするのは、適当な記述といえる。
- ④ 正 専門家ともいえる製陶工場の人から土管や甕や陶片の種類を聞き取り調査で調べるのは、適当な記述といえる。

問 6 36 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

窯業の工業立地分類と、表の読み取りから事業所ごとの規模を答える問題。問題文は長いですが、問われていることは非常にシンプルである。

- カ** 原料地が当てはまる。職員の「焼き物に使える粘土がとれたことから、窯業がおこりました」という言葉から、原料の粘土の採れる土地だから窯業が興り、原料地を指向した工業として発展してきたことがわかる。
- キ** 小さいが当てはまる。表 1 の窯業・土石の欄を見ると、ほかの業種と比べて従業者数と出荷額の割に事業所数が多いことがわかる。1つの事業所あたりで働く従業者数が少なくなるので、規模が小さくなる。

以上より、**カ**が「原料地」、**キ**が「小さい」となる組み合わせの②が正解である。